

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600109		
法人名	医療法人 田岡会		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地	徳島県三好市池田町シマ717番地1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成21年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670600109&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周辺には総合病院、スーパー、保育園、商店等があり生活環境が整っている。母体法人の医療機関との緊密な連携体制があり、緊急時の対応は24時間迅速に行える体制を取っている。重度化した場合や終末期の取り組みも積極的に行い、安心して生活が送れるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は利用者とのコミュニケーションを重要視し、職員が一人一人と、より多く話す機会をつくるよう努力している。利用者がより生き生きと生活していただくために、その人の笑顔や思い、会話、表情を引き出せるよう声かけや呼称などについて全職員で話し合い、工夫しながら支援している。馴染みの人・場との繋がりを大切にし、全利用者に対して地域の理美容室の協力を得ながら家族と相談し、関係の継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々と交流し住み慣れた地域の中で安心してその人らしい人生を送れるよう支援してゆき地域住民の心の拠り所となれるグループホーム」を理念としている。毎朝のミーティング時に、全職員で理念を唱和し、具体化していくことを意識して取り組んでいる。	新任研修で理念についての研修を実施している。また毎朝ミーティングで唱和し、理念にもとづく具体的なケアについて話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店や理美容院等を利用し、地域の人々と顔見知りの関係ができています。ホームのお祭り等に参加を呼びかけ、気軽に近所の人が立ち寄れる環境ができています。また高齢者向けの専門家によるわかりやすい指導やお話の会を開き、楽しみながら交流できる機会をつくっている。	地域のもちつきへの参加や買い物、散歩時に挨拶を交わすなど積極的に地域と交流している。またホームの祭りや栄養についてのお話の会に地域の方に参加をしてもらったり、近くの保育園児が来訪してくれたりするなど、地域とのつながりを大切にして支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の専門学校生や高校生等の実習を積極的に受け入れて人材の育成に努め、地域の高齢者に対するケアサービスの推進に還元できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、近所の方、地域包括支援センター職員、他施設の職員等に参加を呼びかけ、事業内容や外部評価の結果、改善の取り組みを報告している。参加者から広い視野で意見を聞き、サービスの質の向上につなげている。	運営推進会議にあわせて高齢者の栄養についてのお話会や家族との意見交換などを行っている。運営推進会議を有効に活用し、多くの情報を得るなどしてサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	みよし広域連合介護保険センターとは頻りに交流があり、情報交換を行っている。生活困難者等の支援のため市町村と協議してともに取り組み問題解決にあっている。また市町村の研修へ積極的に参加し、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	事業報告や研修会に参加した時などに情報を得たり、意見交換など交流に努めている。利用者の生活困窮などの問題解決について相談協議を行うなど、協働関係も築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に研修を行って理解を深め、身体拘束の弊害を認識して廃止に取り組んでいる。常に見守り施錠はせず、外出しそうな様子を察知したときは止めるのではなく、一緒についていく等して安全で自由な暮らしを支援している。	身体拘束のないケアについて、全職員で研修を実施している。屋外へはエレベーターを使用する必要があるため、職員は安全を確保した自由な暮らしの支援に努め、利用者は階下の有料老人ホームに入居している利用者の所に出かけるなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の研修を事業所内で行い、またミーティングで常に問題提起し、全職員が認識を深めて虐待の危険を早期に見つけ、対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業の研修には、積極的に管理者や職員が参加している。事業所内研修も行って全職員の理解を深め、対応が必要な入居者には社会福祉協議会と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族が十分に重要事項の内容を理解でき、不安を持たないように時間をかけて説明している。契約解除の際にも十分な時間をかけて話し合って納得してもらい、計画を立てて実行し、退居後の支援を十分にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談窓口の設置、市町村の苦情相談窓口の紹介、家族との連絡ノートの活用等で、意見を伝えやすい体制をとっている。入居者が気軽に意見を出せるよう職員が常に関わって声かけし、入居者の思いを察する努力をして、出された意見苦情は全職員で検討し、結果を本人と家族に報告し、ケアに反映させている。	月に2回は連絡ノートに家族からも意見を記入してもらい、来れない方には電話などで報告している。利用者満足度調査を実施したり、家族意見交換会を開くなどして、意見を伝えやすい体制ができている。出された意見については全職員で検討し、家族に説明・報告がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常にともに働いて全職員のことを把握し、職員は気軽に事業所の運営に対して意見を出している。意見や提案は全職員で検討し、運営に反映させられるような取り組みができている。	管理者は2か月毎のチームケア会議の中で参加している全職員の意見や提案を聞き、また個人的にも意見交換できる機会をつくり、代表者にも伝えて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員一人ひとりの勤務状態や健康状態、悩み等を把握している。資格の取得を支援し、やりがいや向上心を持てるよう努めている。設備の整った場所で、職員が交代で休息をとれるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育を計画して行っている。事業所内研修に加えて、地域の保健所や県立病院、地域包括支援センター等で行われる研修には、積極的に多くの職員が受講できるようにし、研修報告を行って全職員が知識を身に付けられる工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と交流や意見交換を行い、刺激合せてサービスの質の向上に努めている。近くのグループホームの職員との交流があり、情報の交換を行っている。日本認知症グループホーム協会に加入し、研修会や情報の入手、連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面会して困っていることや不安なこと、求めていること、健康状態等をよく聞き、状況を十分把握して理解し、受け止めるよう努め、本人と事業所、職員との信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、家族の立場に立って理解して受け止め、一番の問題点は何か、どうすれば不安なく生活できるかを考えて対応し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が不安なく生活するための必要な支援は何かを面接を通してよく見極め、必要であれば関連施設や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも協議し、方策を考え対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員はともに支え合い、生活している家族だという意識を常に持ち、入居者一人ひとりの能力、個性を活かしてお互い助け合っている。また職員も毎日の生活の中で昔の風習や生活の技を教えてもらい、学び、支え合う関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や家族とのこれまでの関係を十分把握したうえで、家族の意見や悩みをよく聞いている。また利用者の情報を細かく家族に伝え、信頼関係をつくり、助け合い一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や地域との関係を把握し、入居以前の関係ができるだけ継続できるように、昔から利用していた行きつけの理美容院、化粧品店等に付きそって出かけ、馴染みの人との交流を支援するよう心がけている。	全利用者に対して、入居前の行きつけの理美容院に出かけて利用できるよう支援している。買い物も馴染みの店の利用を続けるなど、地域の理解と協力を得ながら支援している。知人や友人とも、継続して交流できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に関わり、利用者同士の相性や関係等を十分把握して職員と一緒にコミュニケーションを取り、利用者同士の関係がうまくいくよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院した場合は、入院中の相談やお見舞い、お世話、情報提供をこまめに行い、退居後も関係を大切にできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わりコミュニケーションを取り、利用者のしたいことや会いたい人、好むもの等を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には家族からの情報や日々の行動や表情から思いを汲み取って、希望にそった暮らしができるよう心がけている。	一人ひとりの生活歴をよく知り、ゆっくりと関わることを大切にしている。表現の少ない場合や意思疎通の困難な場合には、ボディタッチや声かけを多くしたり、一対一で関わるなどして思いや暮らしの希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の生活歴や今までの家庭環境をこまめに聞き取り、全体像の把握に努めている。面会時に家族や知人等に働きかけ、プライバシーに配慮しながら情報提供をお願いして本人の意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりをよく観察して生活リズムを把握し、ゆっくりと本人のできることを声かけ見守りながら行ってもらい、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、希望やニーズを細かく聞き取って把握して、職員間で話し合って気づいた点やアイデア、課題を反映させて利用者本位の具体的な介護計画を作成している。状態やニーズの変化に合わせてそのつど計画の見直しを行い、現状にあった介護計画を作成している。	医師や看護師、栄養士など多くの関係者が参加して2か月ごとにケアプラン会議を開き、利用者や家族のニーズや希望、担当職員の意見や気づきを計画に反映して現状に即した介護計画を作成している。3か月ごとの定期的および変化に応じた随時の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな出来事や変化、ケアの実践効果等を個別記録に記入して全職員が把握している。状態の変化や本人の希望に変化があった場合は、それを参考にして介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービスだけでなく緊急時の通院や送迎、24時間医療対応など、入居者のその時のニーズに応じて臨機応変に必要な支援を行い、個々の満足度を高める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や婦人会、保育園、消防署等に働きかけ、ボランティア活動への参加や協働、意見交換等を行い、協力して支援する体制ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望や心身の状態に合わせて、それぞれの医療機関に受診や通院介助を行い、適切な医療を受けられるように支援している。希望により母体法人の医療機関が週2回の訪問診療を行っている。受診の結果は家族に報告し、情報を共有している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は、家族と相談しながら支援している。母体法人の医師による訪問診療もあり、受診などの結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が毎日健康管理や医療支援を適切に行い、入居者の心身の状態を朝夕の申し送りや伝達する体制があり、変化を見逃さず緊急時には協力して対応に当たっている。24時間、同じ法人の施設の看護師と医療連携をとる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院ができるよう医療機関や病院関係者との関係づくりを行っている。入院時やその後の情報交換、相談を行い早期の退院支援につなげている。お見舞いや家族との交流から状況を把握して精神的支援を行い、ダメージを少なくして早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望により住み慣れた所で安心して過ごせるように、重度化した場合や終末期の指針を定めている。本人や家族の意向の確認を行い、医師や看護職員、介護職員、医療機関等とも連携して対応にあたっている。状況の変化に応じて治療方針を全員で話し合い、穏やかに納得して最期を迎えられるよう支援している。	本人や家族にとって重度化した場合や終末期のあり方は大きな不安の一つととらえ、指針を作成してできるだけ早い段階に事業所の対応を説明し、同意書を得るなどしている。看取り介護の実績があり、安心して暮らし続けられる支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	骨折や発作、誤嚥等の急変や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、それに従って訓練や研修を行って技術を身につけ、全職員がすばやく緊急時対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間を想定した防火や避難、通報訓練を行っている。消防署と連携を取り、同一の法人、併設施設の職員等とともに災害時対応の研修を行い災害に備えている。ホームと他施設の職員との緊急連絡網を整備して、連携を図り災害時に協力して対応できる体制を整えている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練や法人全体での合同訓練などを実施している。また、消防署と連携して災害時の研修も行っている。生活の場が2階にあるため、バルコニーに3箇所、緩降機を設置している。日常的に避難場所や避難経路の確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に常に関わって行動をよく観察し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮して、尊厳を傷つけないよう取り組んでいる。個人情報保護の研修を行い、守秘義務の理解、書類等の管理、取り扱い方法など職員の意識向上を図り、プライバシー保護の徹底に努めている。	一人ひとりの人格や誇りを大切にしながらプライバシーの保護を徹底し、研修や職員同士で意識し合うなどしている。また笑顔を引き出せるよう呼びかけや会話を工夫するなど、利用者がより生き生きと生活し自己決定しやすい支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりをよく観察し、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを注意深く受け止めて本人の希望や好みを把握し、職員が押しつけることなく本人の意思が反映され決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のスケジュールにとらわれることなく、その日その人のしたいことを把握して利用者に合わせて生活を支援している。一人ひとりの生活リズムに配慮し、食事や入浴、起床時間等は入居者のペースを常に優先し、その人らしく毎日の生活が送れるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望によって職員が付きそい、一人ひとり行きつけの理美容院に行き好みの髪型になるよう支援している。毎日の着替えや身だしなみは、本人の希望を聞いて好みの服装が楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の段階から入居者と相談して、季節感や昔懐かしい好みの献立を取り入れ、食事を楽しくするよう努めている。買い物好きな人や後片付けの得意な人等、できることや得意なことを見極めて活かし、職員と協力して行ってもらっている。出来上がった食事は、職員と一緒に食べて会話しながら楽しめるよう努めている。	日頃の食事状況や意見を聞いて、法人内の管理栄養士に相談して献立を立て、買い物や下準備、片付け、食器洗い等できることを一緒に行いながら楽しめるよう支援している。干し柿などを、作る過程を楽しむこともしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の水分と食事の摂取量のチェック表を作成して記録し、併設施設の栄養士に定期的に献立やカロリー等のチェックを行ってもらい、栄養のバランスが取れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣づけて、全員が行えるよう根気よく働きかけて清潔に努めている。また歯磨き後のチェックや入れ歯の手入れ、管理は職員が確実に行って肺炎予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの状態にあったオムツ、パット等の種類を使い分けている。チェック表を使用して排泄パターンを把握し、誘導を行いきるだけトイレでの排泄に向けて支援している。	一人ひとりの排泄状況を記録して、日中はオムツをパットにするなどして、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに寒天や乳製品等を多く取り入れ、水分摂取も頻回に声かけしている。散歩や体操など運動を心がけ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は職員が付き添って、安全を確認しながら自宅と同じように一人ひとりゆったりとくつろいで入ってもらえるよう工夫している。希望する時間帯にもできるだけ対応している。また同性の職員が支援するように心がけている。	入浴は、本人の希望でいつでも入れるよう支援している。ゆっくりと本人の希望に合わせた支援を行っている。嫌がる方には、対応について職員間で話し合っ個人性格や特徴を理解し、気分を変えながら根気よく対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりをよく観察し、日中の生活の中でリズムを整えるために、無理なく体を動かし、心地よい疲れを感じて安眠が得られるよう努めている。寝付けないときは無理をせず職員とテレビを見たりお茶を飲む等して安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が主に薬の管理を行い、医師の指示に従って服薬の支援をしている。他の職員も常に一人ひとりの病気や薬の内容を把握し、薬に変更があった場合の副作用にも注意して観察している。また、服薬の間違いを防ぐため、チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の希望や残存能力を把握するよう努め、花の栽培やメダカの世話、草取り等できる役割を見出し毎日の生活が充実でき、自信につながるよう支援している。童謡や懐メロなど昔馴染みの懐かしい歌を職員とともに歌い、癒しと刺激になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あらかじめ計画を立てるのではなく、一人ひとりのその日の希望を把握して散歩や隣の施設への訪問、買い物、ドライブ、地域行事への参加など積極的に外出の機会をつくり、ストレスのない生活を送れるように支援している。墓参りや懐かしい場所への外出希望を日々の会話の中で聞き出し、家族の協力を得てできるだけ実現できるよう支援している。	入居前からの行きつけの理・美容室などの利用、付近の散歩、スーパーへの買い物など、車椅子の人も同じように日常的に出かけている。家族と外泊や外出するときの送迎や地域の文化祭の見学など利用者の思いや希望にそった外出支援ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すずらん 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭管理ができる方には管理してもらっている。事業所で管理している方には買い物時に預かった金銭を渡して買い物の楽しみを味わってもらっている。定期的に預かり金の帳簿を家族に見てもらい、了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用して居室や希望の場所でいつでも電話できるように配慮している。希望により職員が手紙の代筆をしたり、年賀状や暑中見舞い状は毎年出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔懐かしい置物や手作りの品、四季のお花等で家庭的でほっと安らげる環境づくりに努めている。冬はこたつを置き、三月のお雛飾りや鍋料理、ゆず湯等で季節感を出して五感に働きかけている。	壁の片隅の飾り棚には心和む掛け軸と季節を感じさせる花があり、また思い出の写真や利用者の作品がそっと飾られるなどしている。利用者は、ソファや炬燵でゆったりとテレビを見ながら食事作りを眺めているなど、自分を表現する場と一人ひとりの居場所があり、居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に昔懐かしい置物と椅子を置き、ベランダに園芸コーナーを作って空間に長椅子を設置するなど、くつろいで過ごせるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、日頃から好んで使用している日用品や馴染みの物を持ち込み、自宅とギャップの少ない雰囲気をつくって不安感を解消し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	多くの利用者が日中は居間で過ごしているため、夜間にゆっくりと居心地よく過ごせるよう馴染みの物を置いたり、飾りすぎないようにするなど、その人の特徴を理解して本人や家族と話し合い、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の変化から起こる混乱を防ぎ、自立して安全に生活が送れるようにトイレや風呂場、流し台の高さ等の工夫を行っている。一人ひとりをよく観察し、職員が知恵を出し合ってその人に合わせた道具の工夫もできるだけ行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々と交流し住み慣れた地域の中で安心してその人らしい人生を送れるよう支援してゆき地域住民の心の拠り所となれるグループホーム」を理念としている。毎朝のミーティング時に、全職員で理念を唱和し、具体化していくことを意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の商店や理美容院等を利用し、地域の人々と顔見知りの関係ができています。ホームのお祭り等に参加を呼びかけ、気軽に近所の人たちが立ち寄れる環境ができています。また高齢者向けの専門家によるわかりやすい指導やお話の会を開き、楽しみながら交流できる機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の専門学校生や高校生等の実習を積極的に受け入れて人材の育成に努め、地域の高齢者に対するケアサービスの推進に還元できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、近所の方、地域包括支援センター職員、他施設の職員等に参加を呼びかけ、事業内容や外部評価の結果、改善の取り組みを報告している。参加者から広い視野で意見を聞き、サービスの質の向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	みよし広域連合介護保険センターとは頻りに交流があり、情報交換を行っている。生活困難者等の支援のため市町村と協議してともに取り組み問題解決にあたっている。また市町村の研修へ積極的に参加し、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に研修を行って理解を深め、身体拘束の弊害を認識して廃止に取り組んでいる。常に見守りし施錠はせず、外出しそうな様子を察知したときは止めるのではなく、一緒についていく等して安全で自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の研修を事業所内で行い、またミーティングで常に問題提起し、全職員が認識を深めて虐待の危険を早期に見つけ、対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業の研修には、積極的に管理者や職員が参加している。事業所内研修も行って全職員の理解を深め、対応が必要な入居者には社会福祉協議会と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族が十分に重要事項の内容を理解でき、不安を持たないよう、時間をかけて説明している。契約解除の際にも十分な時間をかけて話し合ってもらい、計画を立てて実行し、退居後の支援を十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談窓口の設置、市町村の苦情相談窓口の紹介、家族との連絡ノートの活用等で、意見を伝えやすい体制をとっている。入居者が気軽に意見を出せるよう職員が常に関わって声かけし、入居者の思いを察する努力をして、出された意見苦情は全職員で検討し、結果を本人と家族に報告し、ケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常にともに働いて全職員のことを把握し、職員は気軽に事業所の運営に対して意見を出している。意見や提案は全職員で検討し、運営に反映させられるような取り組みができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員一人ひとりの勤務状態や健康状態、悩み等を把握している。資格の取得を支援し、やりがいや向上心を持てるよう努めている。設備の整った場所で、職員が交代で休息をとれるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育を計画して行っている。事業所内研修に加えて、地域の保健所や県立病院、地域包括支援センター等で行われる研修には、積極的に多くの職員が受講できるようにし、研修報告を行って全職員が知識を身に付けられる工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と交流や意見交換を行い、刺激を合せてサービスの質の向上に努めている。近くのグループホームの職員との交流があり、情報の交換を行っている。日本認知症グループホーム協会に加入し、研修会や情報の入手、連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面会して困っていることや不安なこと、求めていること、健康状態等をよく聞き、状況を十分把握して理解し、受け止めるよう努め、本人と事業所、職員との信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、家族の立場に立って理解して受け止め、一番の問題点は何か、どうすれば不安なく生活できるかを考えて対応し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が不安なく生活するための必要な支援は何かを面接を通してよく見極め、必要であれば関連施設や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも協議して方策を考え対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員はともに支え合い、生活している家族だという意識を常に持ち、入居者一人ひとりの能力、個性を活かしてお互い助け合っている。また職員も毎日の生活の中で昔の風習や生活の技を教えてもらい、学び、支え合う関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や家族とのこれまでの関係を十分把握したうえで、家族の意見や悩みをよく聞いている。また利用者の情報を細かく家族に伝え、信頼関係をつくり、助け合い一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や地域との関係を把握し、入居以前の関係ができるだけ継続できるように、昔から利用していた行きつけの理美容院、化粧品店等に付きそって出かけ、馴染みの人との交流を支援するよう心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に関わり、利用者同士の相性や関係等を十分把握して職員と一緒にコミュニケーションを取り、利用者同士の関係がうまくいくよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院した場合は、入院中の相談やお見舞い、お世話、情報提供をこまめに行い、退居後も関係を大切にできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わりコミュニケーションを取り、利用者のしたいことや会いたい人、好むもの等を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には家族からの情報や日々の行動や表情から思いを汲み取って、希望にそった暮らしができるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の生活歴や今までの家庭環境をこまめに聞き取り、全体像の把握に努めている。面会時に家族や知人等に働きかけ、プライバシーに配慮しながら情報提供をお願いして、本人の意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりをよく観察して生活リズムを把握し、ゆっくりと本人のできることを声かけ見守りながら行ってもらい、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、希望やニーズを細かく聞き取って把握して、職員間で話し合っ気づいた点やアイデア、課題を反映させて利用者本位の具体的な介護計画を作成している。状態やニーズの変化に合わせてそのつど計画の見直しを行い、現状にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな出来事や変化、ケアの実践効果等を個別記録に記入して全職員が把握している。状態の変化や本人の希望に変化があった場合は、それを参考にして介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービスだけでなく緊急時の通院や送迎、24時間医療対応など、入居者のその時のニーズに応じて臨機応変に必要な支援を行い、個々の満足度を高める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や婦人会、保育園、消防署等に働きかけ、ボランティア活動への参加や協働、意見交換等を行い、協力して支援する体制ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望や心身の状態に合わせて、それぞれの医療機関に受診や通院介助を行い、適切な医療を受けられるように支援している。希望により母体法人の医療機関が週2回の訪問診療を行っている。受診の結果は家族に報告し、情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が毎日健康管理や医療支援を適切に行い、入居者の心身の状態を朝夕の申し送りや伝達する体制があり、変化を見逃さず緊急時には協力して対応に当たっている。24時間、同じ法人の施設の看護師と医療連携をとる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院ができるよう医療機関や病院関係者との関係づくりを行っている。入院時やその後の情報交換、相談を行い早期の退院支援につなげている。お見舞いや家族との交流から状況を把握して精神的支援を行い、ダメージを少なくして早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望により住み慣れた所で安心して過ごせるように、重度化した場合や終末期の指針を定めている。本人や家族の意向の確認を行い、医師や看護職員、介護職員、医療機関等とも連携して対応にあたっている。状況の変化に応じて治療方針を全員で話し合い、穏やかに納得して最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	骨折や発作、誤嚥等の急変や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、それに従って訓練や研修を行って技術を身につけ、全職員がすばやく緊急時対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間を想定した防火や避難、通報訓練を行っている。消防署と連携を取り、同一法人、併設施設の職員等とともに災害時対応の研修を行い災害に備えている。ホームと他施設の職員との緊急連絡網を整備して、連携を図り災害時に協力して対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に常に関わって行動をよく観察し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮して、尊厳を傷つけないよう取り組んでいる。個人情報保護の研修を行い、守秘義務の理解、書類等の管理、取り扱い方法など職員の意識向上を図り、プライバシー保護の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりをよく観察し、毎日の生活の中でその人の出すシグナルを注意深く受け止めて本人の希望や好みを把握し、職員が押しつけることなく本人の意思が反映され決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のスケジュールにとらわれることなく、その日その人のしたいことを把握して利用者に合わせた生活を支援している。一人ひとりの生活リズムに配慮し、食事や入浴、起床時間等は入居者のペースを常に優先し、その人らしく毎日の生活が送れるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望によって職員が付きそい、一人ひとり行きつけの理美容院に行き好みになるよう支援している。毎日の着替えや身だしなみは、本人の希望を聞いて好みの服装が楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の段階から入居者と相談して、季節感や昔懐かしい好みの献立を取り入れ、食事を楽しくするよう努めている。買い物好きな人や後片付けの得意な人等、できることや得意なことを見極めて活かし、職員と協力して行ってもらっている。出来上がった食事は、職員と一緒に会話しながら楽しめるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の水分と食事の摂取量のチェック表を作成して記録し、併設施設の栄養士に定期的に献立やカロリー等のチェックを行ってもらい、栄養のバランスが取れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣づけて、全員が行えるよう根気よく働きかけて清潔に努めている。また歯磨き後のチェックや入れ歯の手入れ、管理は職員が確実に行って肺炎予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの状態にあったオムツ、パット等の種類を使い分けている。チェック表を使用して排泄パターンを把握し、誘導を行えるだけトイレでの排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに寒天や乳製品等を多く取り入れ、水分摂取も頻回に声かけしている。散歩や体操など運動を心がけ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員が付きそって、安全を確認しながら自宅と同じように一人ひとりゆったりとくつろいで入ってもらえるよう工夫している。希望する時間帯にもできるだけ対応している。また同性の職員が支援するように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりをよく観察し、日中の生活の中でリズムを整えるために、無理なく体を動かし、心地よい疲れを感じて安眠が得られるよう努めている。寝付けないときは無理をせず職員とテレビを見たりお茶を飲む等して安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が主に薬の管理を行い、医師の指示に従って服薬の支援をしている。他の職員も常に一人ひとりの病気や薬の内容を把握し、薬に変更があった場合の副作用にも注意して観察している。また、服薬の間違いを防ぐため、チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の希望や残存能力を把握するよう努め、花の栽培やメダカの世話、草取り等できる役割を見出し毎日の生活が充実でき、自信につながるよう支援している。童謡や懐メロなど昔馴染みの懐かしい歌を職員とともに歌い、癒しと刺激になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あらかじめ計画を立てるのではなく、一人ひとりのその日の希望を把握して散歩や隣の施設への訪問、買い物、ドライブ、地域行事への参加など積極的に外出の機会をつくり、ストレスのない生活を送れるように支援している。墓参りや懐かしい場所への外出希望を日々の会話の中で聞き出し、家族の協力を得てできるだけ実現できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すいせん 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭管理ができる方には管理してもらっている。事業所で管理している方には買い物時に預かった金銭を渡して買い物の楽しみを味わってもらっている。定期的に預かり金の帳簿を家族に見てもらい、了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用して居室や希望の場所でいつでも電話できるように配慮している。希望により職員が手紙の代筆をしたり、年賀状や暑中見舞い状は毎年出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔懐かしい置物や手作りの品、四季のお花等で家庭的でほっと安らげる環境づくりに努めている。冬はこたつを置き、三月のお雛飾りや鍋料理、ゆず湯等で季節感を出して五感に働きかけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に昔懐かしい置物と椅子を置き、ベランダに園芸コーナーを作って空間に長椅子を設置するなど、くつろいで過ごせるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談し、日頃から好んで使用している日用品や馴染みの物を持ち込み、自宅とギャップの少ない雰囲気をつくって不安感を解消し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	環境の変化から起こる混乱を防ぎ、自立して安全に生活を送れるようにトイレや風呂場、流し台の高さ等の工夫を行っている。一人ひとりをよく観察し、職員が知恵を出し合ってその人に合わせた道具の工夫もできるだけ行っている。		